

沼津工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	物理Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	2023-219			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電気電子工学科			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	初歩から学ぶ基礎物理学、熱・波動、電磁気・原子（大日本図書）、熱・波動問題集、電磁気・原子問題集（大日本図書）						
担当教員	住吉 光介,駒 佳明,設楽 恭平						
到達目標							
自然現象を物理法則のもとで理解すること。前期：波動現象について理解すること。波の基本的な物理量、音や光の現象における物理法則を取り扱うこと。後期：静電場・磁場の性質、電流と磁場の関係、電磁誘導について理解して、物理法則を取り扱うこと。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	波の基本的な物理量を扱い応用することができる			波の基本的な物理量を扱うことができる。		波の基本的な物理量を扱うことができない	
評価項目2	音や光の現象における物理法則を取り扱い応用することができる			音や光の現象における物理法則を取り扱うことができる		音や光の現象における物理法則を取り扱うことができない	
評価項目3	静電場の性質を理解して応用できる			静電場の性質を理解できる		静電場の性質を理解できない	
評価項目4	電流と磁場の関係、電磁誘導について理解して応用できる			電流と磁場の関係、電磁誘導について理解できる		電流と磁場の関係、電磁誘導について理解できない	
学科の到達目標項目との関係							
【本校学習・教育目標（本科のみ）】 2							
教育方法等							
概要	1年物理の知識を元に、自然現象や日常生活で現れる事柄に潜む物理法則について実験例を通じて学ぶ。定性的な理解を深めるとともに、数式を用いて定量的に物理法則を扱う。前期には波動現象、音、光に関する法則による記述と現象の取り扱いについて学ぶ。後期には静電場・磁場について学び、電磁気学の基礎について理解する。						
授業の進め方・方法	1年物理をもとに、音や光などの波動現象、電気・磁気の現象を身の回りの現象との関連を考えながら、授業を進める。実際の現象をデモ実験で見ることを交えながら、波動や電磁場の概念を理解していく。また、問題演習プリントにより計算や作図などの練習をおこなう。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス・波動 1		波の基本量を扱う		
		2週	波動 2		波の表し方（グラフ）		
		3週	波動 3		波の重ね合わせ		
		4週	波動 4		波の反射・定常波		
		5週	波動 5		波の屈折・干渉		
		6週	波動 6		波の式・正弦波		
		7週	波動の性質		まとめ・問題演習		
		8週	前期総合演習 1				
	2ndQ	9週	音 1		音波の性質		
		10週	音 2		弦の振動		
		11週	音 3		気柱の振動		
		12週	音 4		ドップラー効果		
		13週	光 1		光の性質		
		14週	光 2		光の干渉・回折		
		15週	前期総合演習 2				
		16週					
後期	3rdQ	1週	静電気 1		ガイダンス・静電気		
		2週	静電気 2		クーロンの法則		
		3週	静電気 3		電場		
		4週	静電気 4		電場の重ね合わせ		
		5週	静電気 5		電位と仕事		
		6週	静電気 6		電場中の物体		
		7週	静電気の性質		まとめ・問題演習		
		8週	後期総合演習 1				
	4thQ	9週	電流と磁場 1		ガイダンス・電流		
		10週	電流と磁場 2		磁場		
		11週	電流と磁場 3		電流と磁場		

		12週	電流と磁場 4	電流が受ける力
		13週	電流と磁場 5	ローレンツ力
		14週	電流と磁場 6	電磁誘導の法則
		15週	後期総合演習 2	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	物理	波動	波の振幅、波長、周期、振動数、速さについて説明できる。	3	前1
				横波と縦波の違いについて説明できる。	3	前1
				波の重ね合わせの原理について説明できる。	3	前2
				波の独立性について説明できる。	3	前2
				2つの波が干渉するとき、互いに強めあう条件と弱めあう条件について計算できる。	3	前5
				定常波の特徴(節、腹の振動のようすなど)を説明できる。	3	前4
				ホイヘンスの原理について説明できる。	3	前5
				波の反射の法則、屈折の法則、および回折について説明できる。	3	前5
				弦の長さや弦を伝わる波の速さから、弦の固有振動数を求めることができる。	3	前10
				気柱の長さや音速から、開管、閉管の固有振動数を求めることができる(開口端補正は考えない)。	3	前11
				共振、共鳴現象について具体例を挙げることができる。	3	前9
				一直線上の運動において、ドップラー効果による音の振動数変化を求めることができる。	3	前12
				自然光と偏光の違いについて説明できる。	3	前13
				光の反射角、屈折角に関する計算ができる。	3	前14
				波長の違いによる分散現象によってスペクトルが生じることを説明できる。	3	前13

評価割合

	演習	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0